Press Release

The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館

報道関係資料
2003 年 12 月

神奈川県立近代美術館 葉山
開館記念

ベン・ニコルソン展

―現代イギリス絵画・造形の詩人―

BEN NICHOLSON

■会期　：2004 年 2 月 7 日（土）－ 3 月 28 日（日）
■休館日　：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日
■開館時間　：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は 4 時 30 分まで）
■入館料　：一般 1200 円（1100 円）
20 歳未満・学生 1050 円（950 円）
65 歳以上 600 円
（　）内は 20 名以上の団体料金です。
高校生以下の方、障害者の方は無料で入館できます。
■会場　：神奈川県立近代美術館 葉山

主催　：神奈川県立近代美術館、東京新聞
後援　：ブリティッシュ・カウンシル
協力　：日本航空

ご掲載いただく際のお客様お問合せ先

神奈川県立近代美術館 葉山
〒 240-0111　神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
tel. 046-875-2800　/　fax. 046-875-2968
URL:　http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/index.html

Press Release

The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館

BEN NICHOLSON

ベン・ニコルソン展

—現代イギリス絵画・造形の詩人—

このたび、久しく待望されていました 20 世紀イギリスの画家ベン・ニコルソン（1894-1982）の本格的な回顧展を開催いたします。

「ベン・ニコルソン—現代イギリス絵画・造形の詩人—」と題された本展覧会は、イギリス美術の伝統とヨーロッパ大陸の新たな潮流、あるいはイギリス南部の素朴な芸術など、さまざまな要素を取り入れ消化しつつ、自分自身の絵画を創造するに到ったニコルソンのきわめて味わい深い仕事を充分に振り返ろうというものです。

ニコルソンの絵画は、風景画と静物画を中心にして展開されました。しかしそれらは眼に見える対象をそのままに写すのとは違い、繊細な色調と魅惑的な線によって、ときに半ば抽象的になり、ときに風景や静物の本質に届く幾何学的な形態で表されています。高名な画家だった父ウィリアム・ニコルソンの影響とその超克、ピカソやブラックのキュビスム、モンドリアンの新造形主義の感化、漁師でありながら素朴で力強い絵を描いたアルフレッド・ウォリスの発見、それらを通してニコルソンの芸術は形成されていきます。そして妻のバーバラ・ヘップワースやヘンリー・ムーアらとグループ〈ユニット・ワン〉を結成してイギリスの抽象芸術を推し進め、自らの絵画の方向を定めていったのです。とくに第二次世界大戦後に制作されたレリーフ絵画は、彼の生涯の後半期を決定的に性格づけるばかりでなく、抽象芸術の到達点を示して、20 世紀後半の絵画を語るに忘れることができません。

半具象と抽象のあいだを行き来しながら、線の魅力と透明感あふれる色彩を湛えるその作品の数々は、どれもが見る人に深い印象を与えます。本展覧会では、そうした絵画のなかからニコルソンの生涯にわたる代表的な作品を網羅して、初期から晩年までの変遷と彼の画業の高みをたどります。

約 90 点の出品作は、本展コミッショナーを勤めるニコルソン研究の第一人者ジェレミー・ルウィソン氏の協力を得て、ニコルソンの故国イギリス、あるいはアメリカや日本国内などから集められています。これらの作品群は、その質の高さで来場者の皆様を必ず堪能させることと思います。

【展覧会構成】

Ⅰ　基礎の蓄積　―　静物画と風景画　1919 ― 30
Ⅱ　絵画と彫刻のはざま　―　パリ、ロンドン　1932-39
Ⅲ　戦争と戦後　―　キュビスム再訪　1939-59
Ⅳ　巨石遺跡に匹敵するもの　―　最後の隆盛　1960-74

基礎の蓄積　―　静物画と風景画　1919 ― 30

1919 年以前の作品には、当時のイギリス絵画の特徴である 17 世紀オランダ・スペインの静物画からうけた影響がみられます。それは、克明な写実と荘厳な雰囲気を強調する父ウィリアムの絵画を踏襲しているともいえ、それ以降の作品にある革新的な性質は、まだあらわれていません。しかし静物画は、彼の生涯を通じて永続的なテーマとなっていきます。1920 年にウィニフレッドと結婚し定期的にパリへ旅行するようになると、キュビスムの観察から学んだ手法やセザンヌの手法に影響をうけ、作風は写実から抽象へと変化していきました。

絵画と彫刻のはざま　―　パリ、ロンドン　1932-39

1931 年 9 月に、ニコルソンは、バーバラ・ヘップワースやヘンリー・ムーアの招きでノーフォーク海岸沿いにあるコテージを訪ねました。ヘップワースとの関係もこのころ始まりますが、特に彼女がニコルソンに与えた影響は大きく、数ヶ月のうちに、彼はそれまでの様式を捨てて、ブラックやピカソの作品により一層傾倒していくようになりました。物質性や画面の平坦さがより強調され、「パピエ・コレ（貼り紙）」の手法もとられます。またこのころ、ピカソをはじめ、ブランクーシやジャコメッティ、アルプ、モンドリアンらのアトリエを訪ねます。画面はより自由になり、様々な素材が使われるようになります。コラージュ作品からは、空間と時間のずれに対する関心や、平面やその高さのわずかな変化へのニコルソンの関心の高まりがみてとれるようになり、やがてその関心は最初のレリーフ制作に向けて展開していきました。

戦争と戦後　―　キュビスム再訪　1939-59

戦争が布告されると、ニコルソンとヘップワースは、その直前に訪れたコーンウォールにとどまることを決意します。戦時中は、作品写真や著作のアルバムをまとめながら、自身の仕事を振り返ることに多くを費やしました。戦後、彼は風景画と静物画という初期のテーマへ立ち戻っていきます。なかには静物画と風景画を結合したようなものもあります。これらすべての静物画において、ニコルソンの物体描写は一層抽象性を増し、その大半は相互に関連し合う物体と物体をつなぐ、リズミカルな輪郭線によって描き出されています。やがてニコルソンは、再びレリーフ彫刻への関心をよみがえらせ始めます。1948 年にブルターニュを訪れた際に新石器時代の遺跡を見て回った経験は、非常に重要な印象をニコルソンにもたらしました。

巨石遺跡に匹敵するもの　―　最後の隆盛　1960-74

スイスのティチーノに移住したことは、ニコルソンの芸術において大変意義深いことでした。1960 年以降は静物画よりもレリーフを彫ることに彼は専念します。そのうちのいくつかはそれまでにないほどスケールが大きく、おそらく周囲の山岳風景にだけでなく、1950 年代後半にヨーロッパ中を魅了した抽象表現主義の衝撃にも呼応したものでした。彼のレリーフは、ドルメン（巨石文化の遺跡）の追憶というに相応しく、地上の驚異への関心が新たなテーマとなってあらわれます。大地がたえず変化するように、あらわれた色彩は、固定することなく穏やかに変容を続けるかのようでした。

ベン・ニコルソン略歴

1894 年　4 月 10 日、バッキンガムシャー州デナムに、画家夫妻ウィリアム・ニコルソンとメイベル・プライドの長男として生まれる。
1910 年　ロンドン、スレード美術学校に入学。
1911 年　スレード美術学校を退学。
1912 年　フランスのトゥールでフランス語を習う。画家になる決心をする。
1914 年　第一次世界大戦が始まるが喘息のため兵役を免除される。
1920 年　画家ウィニフレッド・ロバーツと結婚。
1931 年　彫刻家バーバラ・ヘップワースと一緒にアトリエを借り、生活を共にする。
1933 年　ピカソ、ブラックと知り合う。フランスで結成された非具象主義グループ＜アプストラクシオン＝クレアシオン＞のメンバーとなる。
1934 年　パリのモンドリアンのアトリエを初めて訪問。＜ユニット・ワン＞の展覧会に出品。ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。
1936 年　ニューヨーク近代美術館でアルフレッド・バー・ジュニア企画の「キュビスムと抽象美術展」に出品。
1937 年　彫刻家ナウム・ガボ、建築家 J.L. マーチンと『サークル―構成主義美術の国際的概観』を共同編集。
1938 年　バーバラ・ヘップワースと結婚。
1944 年　リーズ市立美術館で最初の回顧展開催。
1954 年　ヴェネツィア・ビエンナーレで回顧展。ユリシーズ賞受賞。
1955 年　東京都美術館の「第 3 回日本国際美術展」に出品。東京都知事賞を受賞。ロンドンのテート・ギャラリーで回顧展。
1956 年　第 1 回グッゲンハイム国際絵画賞を受賞。
1957 年　写真家フェリシタス・フォグラーと結婚。サンパウロ・ビエンナーレに出品。絵画部門国際賞を受賞。
1969 年　ロンドンのテート・ギャラリーで 2 回目の回顧展。
1978 年　バッファローのオルブライト＝ノックス・アート・ギャラリーで回顧展。
1982 年　2 月 6 日、ロンドンにて没。

Press Release

＊写真を掲載される場合は、 以下のクレジットを必ず記載してください。
©Angela Verren-Taunt/APG-Japan/JAA, Tokyo, 2003
＊写真は広報提供写真に限り、 1 媒体 2 点、 各名刺サイズ大まで著作権使用料は免除されます。
ただし、 掲載に際しては必ず申請をお願い致します。 → 社団法人日本美術家連盟（担当：竹内氏）
〒 104-0061 中央区銀座 3-10-19 TEL. 03-3542-2581/ FAX.03-3545-8429

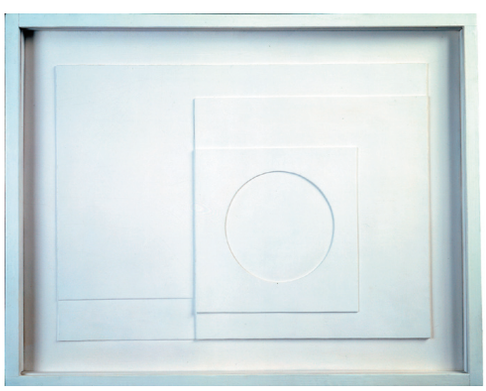
The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館

≪1947.11.11（マーゼル）≫
1947年 46.5 × 58.5cm
油彩、鉛筆、ボードに貼ったキャンヴァス
ブリティッシュ・カウンシル蔵

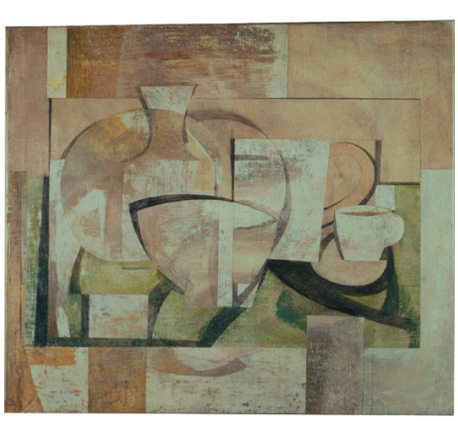
≪1950.4（静物-アベラールとエロイーズ）≫
1950年 119.7 × 165.4cm
油彩、鉛筆、キャンヴァス
ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ蔵

≪1933（サン・レミ―プロヴァンス）≫
1933年 105 × 93cm
油彩、鉛筆、ボード
個人蔵

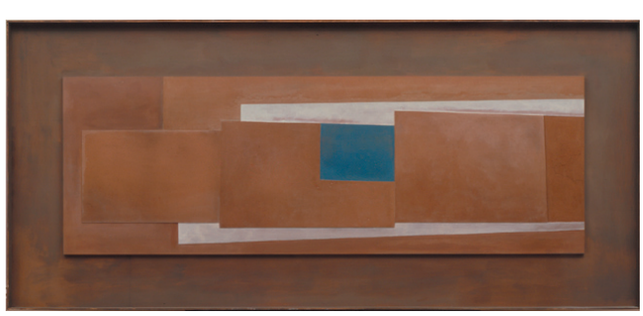
≪1952.6.4（テーブル形）≫
1952年 158.8 × 113.7cm
油彩、鉛筆、キャンヴァス
オルブライト＝ノックス・アート・ギャラリー蔵



≪1936（ホワイト・レリーフ）≫
1936年 54.5 × 70.5cm
油彩、彫り込んだボード
個人蔵



≪1931-36（静物―ギリシア風景）≫
1931-36年 68.5 × 77.5cm
油彩、鉛筆、キャンヴァス
ブリティッシュ・カウンシル蔵



≪1966（ゼナー・コイト 2）≫
1966年 117 × 260.8cm
シャドーボックスに収めた木製カラーつきハード=ボードのレリーフ フィリップス・コレクション蔵

©Angela Verren-Taunt/APG-Japan/JAA, Tokyo, 2003